４歳児　９月

「野菜を育てよう」

４歳児 11 月

「忍者の秘密基地」

２）資質・能力の発揮，伸長を「支える」取組

（１）子供の資質・能力の発揮，伸長を可視化する実践記録フォーマットの活用

前述したとおり，実践記録を記述する際に，事実と解釈を分けて記述している。環境の構成や教師の援助において，事実とは，教師の発言や行動，表情，しぐさ，視線など，教師のありのままの姿であり，解釈とは，その事実はどんな教師の意図があったのかという，実践の最中の教師の意図の振り返りである。それらを分けて書くことで，できる限り教師の思い込みや先入観を排除した事実に基づく教師の意図を振り返って記述することができる。

教師が行った環境の構成や教師の援助一つ一つは，どの子供の，どの資質・能力の発揮，伸長に向けて行動したのか，つまり，どのような意図に基づいて行動しているのか，人に伝わるように言葉にすることが求められる。そして，その環境の構成や教師の援助の後の子供の事実により，環境の構成や教師の援助が一人一人の子供にとってどのような意味があっ

たのか，子供の事実に基づいて，環境の構成や教師の援助を評価することができる。つまり，本研究の実践記録フォーマットを実践者が記述する際に，事実の見取りによる子供の評価と教師の実践の評価を同時に行っていくことができることを意味している。開発した実践記録を書くことで，実践をより深く振り返ることができるのである。

また，教師集団で実践記録の検討を行うことで，環境の構成や教師の援助としての自分の行動が，子供にとって自分が思いもしなかった影響を及ぼしていたり，子供にとっての意味が教師の意図と異なったものになっていたりなど，自分にはなかった見方に気付かされる。そして，書いていることに疑問を投げかけられることで，再度事実から振り返り，確認する。そのようなことを通して，一層振り返りを深めることができている。

さらに，資質・能力が発揮，伸長した要因を，資質・能力毎に考察することで，どんな環境の構成や教師の援助が資質・能力の発揮，伸長に有効であったか，また，行ってはいなかったが，振り返って考えると必要であった環境の構成や教師の援助は何なのかをとらえることができた。その集積についても随時行うことで，子供の姿一つ一つを分析的にとらえることで得られた効果と合わさり，実践の中でより方向性が明確で，より資質・能力の発揮，伸長に有効な手立てを行うことに向けた教師の気付きが蓄積されている。実践記録を記述し，教師集団で検討することを継続することが，教師の成長につながるものであり，子供の資質・能力の発揮，伸長を支えることにつながっていく。

（２）子供の資質・能力の発揮，伸長を支えるドキュメンテーションの活用

ドキュメンテーションには，子供の振り返りを促し，より確かな学びへ誘っていく効果がある。また，子供達と教師が見付けたことや考えたことを共有しながら遊びや生活を進めていくことに有効であり，特に５歳児においては，学びの自覚化を促す種まきにもなっている。

５歳児　10月

「ももぐみさんと

いっしょに

するために」